

教育的価値	具体の項目	教育課程
3【そなえる】	⑩【自然災害発生のメカニズム】 自然災害が発生するメカニズムやそれぞれの災害について理解する。 ⑪【身を守り、生き抜くための技能】 危機を予測（回避）し、災害や事故に直面した際に自他の体を守り、被害を最小限に食い止め、非常時に生き抜く技能を身に付ける。	教科（保体）

【題材】

傷害の防止 ～自然災害による傷害の防止～

【対象】

2 学年

【実践の概要・詳細】

(1) 概要

震災後、地震や津波への対応は学校全体で取り組んできている。昨年度は保護者とともに津波に対する防災学習を行った。

近年は、台風や大雨による災害が日本各地で発生し、その被害が多く報告されている。そこで、今年度は台風や大雨による二次災害について理解し、傷害を防ぐ意識を高めることをねらいとした。

(2) 詳細

- ①いわての復興教育副読本を活用した、大雨が降るしくみや対処のしかたについての学習
- ②大雨による二次災害について考える。
- ③大雨による二次災害による被害について知る。
- ④地区ごとに自分が住んでいる地域の危険区域を考える。(野田村全域図・地区防災マップ)
- ⑤被害・傷害を防ぐためにはどうすればよいかを考える
- ⑥講師の方より、二次災害の説明やアドバイスをいただく。

講師 久慈消防署 野田分署  
署長 新山 文雄 氏

⑦関連した学習として

・昨年度と同様、全校生徒と保護者で台風や大雨による災害に対する防災学習を実施した。

講師 盛岡地方気象台の方々

・AED講習会を実施し、心肺蘇生法を学んだ。

講師 久慈消防署の方々



【授業の展開】			
段階	学習の流れ	生徒の学習活動	留意点 ●評価 ★講師活用
導入 5分	1 既習内容の確認	○地震による二次災害からの傷害の防止について確認する。	・校外班ごとに座席を設定 ★講師の紹介 ・前時に調べた資料 「いきる・かかわる・そなえる」
	2 学習課題の設定	大雨による二次災害から傷害を防ぐために、どうすればよいか	
展開 35分	3 課題の解決 ・二次災害の被害	○大雨による二次災害を考える。 ○講師の方から二次災害による被害について聞く。	★講師の方からの話（8分） ・二次災害について（土砂崩れ、河川の氾濫、土石流等） *野田村の道路工事、山林伐採などから、大水、土砂崩れなどの発生が予想されることを確認する。 ○野田村の地図の活用（津波防災マップ） ・シールを貼る
	4 課題の追求 ・野田村の危険区域	○自分が住んでいる地域や通学路の危険区域を考える。 ○講師の方に自分の予想した危険区域が妥当であるかを確認する。	★講師の方からのアドバイスを受ける ・積極的に講師の方から聞くように促す。
終末 10分	・被害・傷害を防ぐために	○被害・傷害を防ぐためにどうすればよいかを考え、発表できる。	○プリントに記入しまとめさせる。
	8 本時のまとめ ・被害、傷害を防ぐためには ・まとめ	○講師の方から災害を防ぐためにどうすればよいかを聞いて確認する。 ○自分の地域の避難場所、避難経路などを振り返る。 ○二次災害の防止のために、確認した危険区域、避難の仕方などを、みんなに広げたり、災害時に的確な判断、行動ができるように意識を高める。	★講師の方から（5分） ・事例 ・災害情報  *津波とは、避難経路、避難場所は異なることを気づかせる。 *道路工事、山林伐採による災害が起こることが予想されることに気づかせる。

**【生徒のまとめ・感想】**

- ・自然災害には、一次災害と二次災害があることがわかった。
- ・二次災害は、災害に備えておくことや、安全に避難することによって防げることがわかった。
- ・今回の授業のように、あらかじめ情報を収集し活用することも必要なことがわかった。

**【まとめ】**

- ・本年度もいわての復興教育の「いきる」「かかわる」「そなえる」それぞれの価値について実践を進めた。
- ・「そなえる」部分において、地震津波に対する備えはもちろんではあるが、近年は台風や大雨の二次災害の被害も軽視できなくなっている。その備えの必要性を感じ保健体育科を中心に実践を行った。
- ・災害はいつ発生するかわからない。日頃の備えが大切であるので、毎年継続して実践することに意義があると感じる。
- ・今年発刊されたいわての復興教育副読本を活用したが、本校生徒が掲載されていたり内容も広範囲に渡って網羅されており、興味を持ち活用しやすい教材であった。

